

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立中百舌鳥中学校
校長 野中 衣里

中学校区におけるめざす子ども像

「生きる力をはぐくみ、はばたく子 ～学びの集団づくり～」・予測困難な社会において、自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え判断して行動し、他者と協働しながら確かな学びに向けて努力できる。
・多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて根拠をもって自分の考えを相手にわかるよう正確に伝えることができる表現力を身につける。

令和7年度 重点目標

生徒から信頼される教師、保護者から信頼される教育、地域から信頼される学校 ～チーム中百舌鳥を機能し【人間力】をはぐくむ～
さらに、教育目標として『人権尊重の精神をふまえ 知・徳・体 の調和のとれた豊かな人間形成』を図るため、家庭・地域との連携を深め「高い知性と創造性のある人間」「社会的連帯感をもち、正しく行動できる人間」「強固な意志と体力をもつ人間」を育成することを目標としている。

「確かな学び」の現状

・基本的な学習習慣や基礎的な学力を身につけている生徒の割合は高く、学校教育アンケートの「授業にまじめに（集中して）取り組んでいる」の肯定的回答では好結果を得ているが、「自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある」では肯定率が7割程度に留まっているのが課題である。
・「先生は教え方を工夫している（わかりやすく教えてくれている）の肯定的回答が9.5割を超えているが、ICTを活用した授業の工夫を行っている教職員の割合がやや低く、もう少し授業の効率化と学習理解度を高める必要がある。

「豊かな心・健やかな体」の現状

・令和6年度の学校教育アンケートの保護者に対する質問の中で「道徳心や社会性が身につく正しい行動ができている」「先生は、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっている」の2項目で好結果を得ており、引き続き生徒たちの豊かな心の育成につなげていきたい。
・部活動体制の見直しにより、部活動数は3年間かけて減少していくが、既存の部活動においては引き続き、体力・技術の向上を目指し、連帯感や達成感をより多く経験させることが今後の課題である。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況 (年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	学力向上	学力・学びの基礎力・社会的実践力の育成	★主体的な学びの向上と授業規律の確立	「チャイム着席で授業を受ける準備ができている」の肯定的評価を85%以上にする	学校教育アンケート	年度末	○ 1. 2学期ともに概ね達成できている	◎	「チャイム着席で授業を受ける準備ができている」の肯定率が95%と主体的に取り組んでいると言える。「家庭学習が習慣になっている」の肯定率が68%に留まった。次年度は生徒用端末の持ち帰りで家庭学習の環境を整えていく。	◎	「家庭学習」という表現を「学校以外での学習時間」とした方が、「家庭学習が習慣になっている」の肯定率も上がるのではないかと。
			家庭学習の習慣化と家庭学習に取り組む意識向上や学習環境の形成	家庭学習に関する肯定的評価を70%以上にする	学校教育アンケート	年度末	△ 2学期末段階では十分達成できていない	△		○	
	授業改善	指導方法の工夫改善と安全・安心な学びの場づくり	生徒用端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の展開と課題解決力の育成	ICTを活用した授業づくりに関する肯定的評価を70%以上にする	学校教育アンケート 参観授業・実践報告	毎学期 および年度末	△ 2学期末段階では十分達成できていない	◎	ICT研修の校内研修や教職員の授業改善の工夫などにより、ICT活用の肯定率が88%と高まった。教育活動を参観する機会は、95%の肯定率を得ている。「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある」と答える肯定率は、教職員と生徒で差があり、教職員は94%・生徒は67%になっている。次年度はその差をなくす仕掛けを探していきたい。	◎	不登校生に対してのICT活用の活性化もできればありがたい。
			●授業において、自分の考えを書く場面や発表する場面の設定	「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある」と答える肯定的評価を70%以上にする	学校教育アンケート	年度末	○ 1. 2学期ともに概ね達成できている	○		○	授業での発表の機会があるかどうかの項目で、教職員と生徒の肯定率に差が生じることについて気になる。
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	人権教育推進による豊かな心の育成	●いじめを許さない（いじめ見逃しゼロ）仲間づくりと多様性を認め合う教育環境づくり	「先生は親身になって応じてくれる」の肯定的評価を90%以上にする	学校教育アンケート 教育相談・調査報告	毎学期 および年度末	○ 1. 2学期ともに概ね達成できている	○	「先生は親身になって応じてくれる」の肯定率は、昨年の87%から95%と大きく上回った。年に3回の教育相談や課題解決に丁寧に取り組んだ成果と言える。	○	「先生は親身になって応じてくれる」の肯定率は上がっているが、教職員の力量に差があるように感じる。
			すべての教育活動で、最後までやりきる達成感や成就感を味わうことによる自己肯定感の向上	「自分にはよいところがある」と答える肯定的評価を70%以上にする	学校教育アンケート	年度末	○ 1. 2学期ともに概ね達成できている	○	「自分にはよいところがある」の自己肯定感	○	自己肯定感の向上は77%であるが、更なる人権教育が望まれる。
			正しい行動ができる道徳心・社会性の取得につながる道徳授業の推進	「正しい行動ができている」の肯定的評価を90%以上にする	学校教育アンケート	年度末	○ 1. 2学期ともに概ね達成できている	○	「正しい行動ができている」は、目標まではいかなかったが、86%の肯定率を得ている。	○	社会性の取得については、授業だけでなく行事の取り組みからも学べるので、広い視野をもって丁寧に取り組むを続けてもらいたい。
体力向上	運動に親しむ環境整備と体力の向上	部活動による連帯感・達成感の向上と子どもたちの「人間育成」につながる指導充実	「部活動に積極的に参加している」の肯定的評価を90%以上にする	学校教育アンケート	年度末	○ 1. 2学期ともに概ね達成できている	○	「部活動に積極的に参加している」の肯定率が86%に留まった。部活動数の減少による影響があると思われる。	○	運動部については、2つの部活動を縮小の方向で進めているが、与えられた環境の中で、指導を行っていただきたい。	
		運動に親しむきっかけ作りの工夫による体力の向上	経年比較昨年度より向上している	新体力テスト	年度末	○ 1. 2学期ともに概ね達成できている	○	新体力テスト結果では、男子は全校平均を下回っているが、その平均との差が昨年より1.12点縮まった。	○	体力向上については、今後も運動に親しむためのきっかけ作りを工夫してほしい。	
地域協働	相互連携	小中一貫した教育の推進とめざす子ども像の共有	★中学校区のめざす子ども像の実現と小中連携による「つながる教育」の活性化	小中合同研修や授業実践交流を通して、肯定的評価を90%以上にする	学校教育アンケート 小中合同実践報告等	年度末	○ 1. 2学期ともに概ね達成できている	○	小中合同研修（夏季）は実施しているが、授業交流（参観）はなかなか実施が難しく、肯定率が85%に留まった。	○	コロナ禍で中止になっていた小学6年生の部活動体験が復活はよかった。また、校区がまたがっている小学校にも配慮し、2つの中学校で同日開催もよかった。
			学校の教育方針や教育活動についての確かな情報公開と発信の活性化	「学校だより・学年だより・ホームページ・情報発信メール等で、教育活動をよく知らせている」の肯定的評価を95%以上にする	学校教育アンケート 各地域協議会報告等	年度末	○ 1. 2学期ともに概ね達成できている	○	教育活動の情報発信は、目標まではいかなかったが、93%の肯定率を得ている。	○	教育活動の発信も引き続きお願いしたい。

校長より (年度末)

確かな学びは、学習環境は整えられ、ICTを活用した授業改善の工夫が見られた。豊かな心・健やかな体は、いじめなどの生徒指導課題や道徳授業による自己肯定感の向上にむけて、昨年同様丁寧に粘り強く指導を行った。地域協働は、東区と中区にまたがる特殊な地域だが、新しい学校のあり方にさらに力をいれて推進していく。

学校関係者評価者から (年度末)

保護者アンケート結果が、昨年度より少し肯定率が下がっているため、学校がひとつとなって頑張っていたきたい。